

# ニューフェイスコーナー

## 子どもの心と体の健康を願って

吉南医師会 あじすこどもクリニック

元山 将

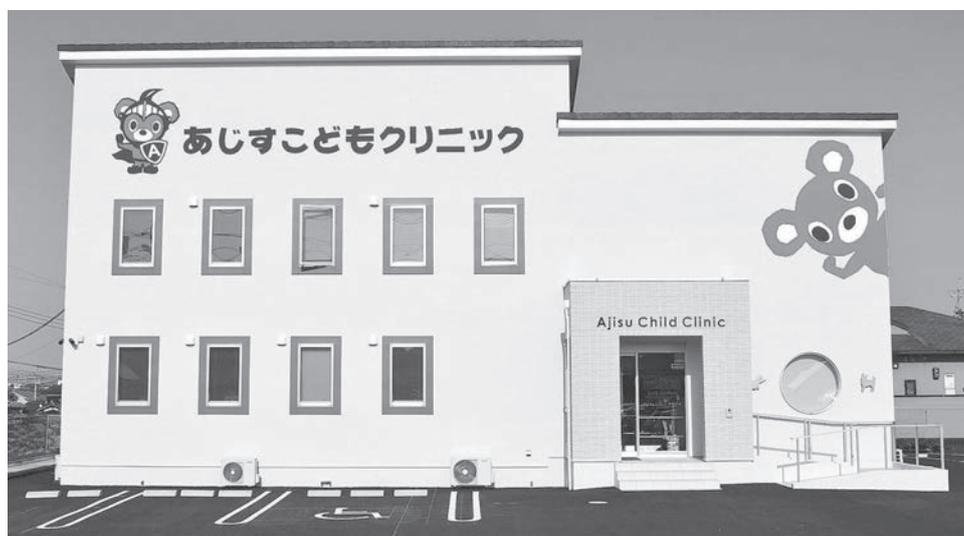
2017年（平成29年）6月に「あじすこどもクリニック」を開院いたしました、元山 将と申します。どうかよろしくお願ひいたします。

当院は山口市阿知須のショッピングモール「サンパークあじす」のすぐ近くで、国道190号線沿いに位置しております。従来、阿知須・秋穂・佐山エリアでは小児科がなかったため、地域の方々にも開院にあたり期待のお声を多くいただきました。期待に応えるべく精一杯努めさせていただきます。期待に応えるべく精一杯努めさせていただきます。

私は平成11年（1999年）に山口大学を卒業し、2年の国試浪人を経た後に小児科に入局しました。大学医局在職時にはNICU（新生児集中治療室）に多く携わらせていただきましたが、県内関連病院では下関市、長門市、柳井市などで一般小児診療を行ってまいりました。特に、最後に勤務してまいりました周東総合病院では気管支喘息やア

トピー性皮膚炎、食物アレルギーなどアレルギー疾患の診療が大半で、慢性疾患の長期管理について多くの経験を積むことができました。また、虐待症例、不登校、心の問題などにも非常に多く関わりました。このような経緯から、そういった疾患を丁寧に診る診療所にしたいという思いが強くなり、今に至っております。

アレルギー疾患はまさに国民病ともいえ、国民の1/2は何らかのアレルギー疾患を患っているといわれている時代です。ガイドラインに則った治療を的確に行い、「悪くなって治療」ではなく、「症状が出ないように」コントロールすることの重要性を患者さんに十分説明し、納得して治療を継続していただくように細心の注意を払っております。気管支喘息では適宜、吸入ステロイドの導入は速やかに行い、呼気一酸化窒素濃度計測（写真1）や呼吸機能検査（写真2）などで客観



的評価を極力行い、管理方針を決めております。アトピー性皮膚炎は、湿疹が悪化してステロイドを塗布する「リアクティブ (reactive) 療法」ではなく、湿疹が悪化しないよう適切なランクのステロイドを継続的に塗布する「プロアクティブ (proactive) 療法」を行うよう説明し、ステロイドの上手な使い方・続け方・止め方を指導し、ステロイド離脱のためタクロリムス外用剤の導入を積極的に勧めております。

夜尿症 (いわゆる「おねしょ」) は、かつては積極的な治療を行わない風潮にありましたが、現在は5歳ごろから治療介入を行うことが推奨されています。夜尿症が残存することは子どもの心理面において、いじめを受けることと同等の影響を及ぼすと言われており、自尊心、自己肯定感の育成に支障を来します。現在は「積極的に治すべき疾患」ととらえられており、当院でも抗利尿ホルモン剤の服薬などによる積極的治療を勧奨しております。

また、近年はいじめや家庭の問題 (DV、虐待、マルトリートメント)、発達特性などで心の問題や不登校、体調不良を来すお子さんが非常に増えており、当院では積極的に介入しております。さまざまな問題が複合的に絡んでおり、ADHD や自閉症スペクトラム障害など発達特性から生きづらさを認める場合も多々あり、二次的に精神疾患を生じ、自傷行為、自殺企図などを認める場合も珍しくありません。コロナ禍で人々の不安が強まり、

周囲の大人たちのストレスも増すことで、心の問題をかかえるケースはさらに拍車をかけて増加してきております。

以上のようにさまざまな系統疾患に関わりながら、子どもたちの5年後、10年後、20年後と長い将来を見据えて、今何をすべきか、と常々考えながら診療を行っております。医療の世界では「あのときあのようにしておけば良かった」、「こうしなければ良かった」などと「たら・れば」の思いを後で悔いることがないことが理想ですが、現実には簡単ではありません。さらに小児科医は「人」の人生の始まりから関わってゆく医療者であることを考えると、その「人」の先の長い人生に多大な影響を与え得ると否が応でも意識させられます。「人様の人生に影響を与える」などというのはおこがましいことですが、少なくともその「人」の心と体の健康に、自分の関わり方がさざ波程度かもしれないかもしれませんが、良い波でも悪い波でも起こしかねないと考えております。人のあり方、性のあり方、学び方、生き方などが多様化し、常識・慣習なども目まぐるしく変化してゆくこの時代に、子どもたちが少しでも生き易く、楽しく笑える時間が増え、それぞれの存在が受け入れられる世の中になるよう、医師としてできることを尽くしていきたいと考えております。

最後に、皆さまにおかれましては今後とも是非、ご指導賜りますようよろしくお願い申し上げます。



写真1 呼吸一酸化窒素濃度計測器



写真2 呼吸機能計測器